

松川村 議会

新年明けましておめでとうございます。

村のますますの発展と村民皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。



3月で任期満了となる平林村長を囲んで（定例会最終日）

上緑町工場団地進出企業に補助金(3041万円)

平林村長2期目の出馬表明される（一般質問で）

12月11日、平成19年第4回定例会が開催されました。

村の補正予算は、一般会計のほか国保・老保・水道の各会計予算を議決しました。一般会計で、上緑町工場団地へ進出した企業に、用地取得への補助金が予算計上されました。

陳情6件を審査し、特に深刻な医師不足と看護師の人材確保については早急な実現に向け、法律制定および改正を求めて、意見を国へ提出することを決めました。また、村の選挙管理委員および補充員の

選挙を、法の定めにより議員が選挙（指名推選）で選出し、決定しました。

開会時、村長あいさつがあり、多目的交流センターの工事工程、交通安全、医療制度改革、19年水稲の作柄と19・20年米生産調整について、また下水道の終末処理場「浄水苑」第3期建設工事終了など報告されました。

一般質問には7名の議員が登壇し、村政を質しました。（内容は18・19頁）
なお、定例会は10日間の日程で12月20日閉会しました。

平成19年第4回定例会 提出案件

【条例】

新設条例

○松川村農業委員会定数条例

〈賛成多数(7人)可決〉

条例改正

○松川村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例など3議案

〈可決〉

【予算】

平成19年度一般会計補正予算など7議案

〈可決〉

【その他】

後期高齢者医療制度についての意見書など2議案

〈可決〉

【報告】

陳情6件

〈承認〉

【選挙】

選挙管理委員・選挙管理委員補充員

〈各4人を選任〉

陳情

【採択】

- ◎深刻な医師不足を打開するための法律の制定を求める陳情書
- ◎「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の改正を求める陳情書
- ◎保険でより良い歯科医療の実現を求める意見書採択についての陳情

【一部採択】

- ◎米価の安定対策を求める陳情

【不採択】

- ◎私立高校に対する大幅公費助成をお願いする陳情書
- ◎後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める陳情

村民待望の文化の拠点

『多目的交流センター』

いよいよ建設開始!

平成19年10月26日

第1回臨時会で議決

議案は「松川村多目的交流センター」建設工事の請負契約の締結について」1件で、平林村長は「平成16年12月1日より13回のワークショップで設計、内容をまとめた。建設工事も松川村で初めての一般競争入札で取り組み、応募した14社の中から請負業者を選定した。予定より約2億円安価の7億5600万円で、松本市のハシバテクノス株式会社が落札した。議会で諮り決定したい」と議案説明しました。

議員からは「安価になったが建築基準は守れるか。工事中は児童などへの安全確保を徹底してほしい。建築中に視察はできないか」などのほか、資格審査や業績についても質問や要望がありました。

「安全第一ですばらしい施設を造る」との村長答弁を受け、全会一致で可決しました。

完成予定は、平成21年2月27日です。

社会福祉文教常任委員会

委員会報告

総務産業建設常任委員会

活力ある村を目指して

平成19年12月13日

7月2日の第1回懇談会の中で、もう少し回数を重ねて検討したほうが良いとの提案があり、2回目の経済懇談会を開催しました。

まず、各団体より7月以降の取り組みの状況報告がありました。原油高の影響で、製造業が落ち込み、そのおりで商店や飲食業も低迷している。また農業も米価の下落が大きく、日々の暮らして苦しんでいる人の対応に追われている。

資材・灯油などの高騰によりすべての産業が厳しい状況にある。などの内容

容でした。

前向きな意見がまとまり

にくい状況で

したが、村の

経済効果を出

すことが大切

で、そのため

にそれぞれの

人が何かひとつの目的を

もって取り組むことが必要

ではないかとの意見が出されました。

今年度は、北アルプスブランドに

「鈴ひかり」「手作り味噌」「田鯉のす



第2回経済懇談会を開催

ずめ焼き」の3品目が認定されたのでこの生産に力をいれ、村外の専門家からもアドバイザーを頂いたり、講演会を開催し、目標を定めたらどうかとの話し合いがされました。

19年度から始まった米政策

「品目横断的経営安定対策」

が見直されつつある中、

J Aと懇談会を開催

平成19年11月30日

米価の急落を受け、始まったばかりの米政策の見直しやコメ緊急対策の状況・取り組みなどについて村理事者、営農支援センターを含め、J A大北の理事者と懇談会を開催しました。

子育て支援の

窓口一本化に向けて

平成19年12月6日

教育委員会・社会教育委員会・民生児童委員協議会関係委員・議会社会福祉文教常任（以下社文）委員会による、4組織の合同会議が、今年度当番の教育委員会主催で開催されました。

今年度は各組織の活動報告の後「食育」と「子育て支援」をテーマに懇談をし、「子育て支援の窓口を一本化すれば子どもたちへのかわりが前進するので、これを切望する」との強い要望がありました。

教育委

員会から、

「窓口一

本化」を

した支援

体制にし

ていく案

が提案さ

れ、環境

福祉課と

連携して

進めるこ

とに決まりました。

また、社文委員会では、希望者が増えている児童クラブの視察を行い、施設の改善などの要望を村にしました。



にぎやかにあやつタイム

後期高齢者医療制度ってなに？

平成19年12月21日

この医療制度について、県の「出前講座」を開催しました。

議会と行政を対象にした開催で、平成20年4月から実施となる大きな医療制度改革の研究をしました。

この医療制度改革について、議会から国に意見書も提出しましたが、わかりやすい資料をもって、村は説明会を実施して行くのとです。



県職員を講師に「出前講座」

一部事務組合報告

〔金額は千の位を四捨五入〕

北アルプス広域連合

平成19年11月26日 定例会報告

議案は2件で、18年9月保健施設内で起きた転倒事故に損害賠償請求があり、示談和解し、損害賠償金を支払う事についてと介護老人保健施設事業特別会計で損害賠償に係る補正予算（歳入歳出とも148万円追加、総額2億6418万円）をそれぞれ全会一致で可決。

8月定例会に提出された陳情書は、ごみ処理特別委員会審査の結果、継続審査となりました。

一般質問は3名で、大町市浅見議員が「ごみ焼却場建設」。小谷村相澤議員が「後期高齢者医療制度施行と北アルプス広域連合の関り」と「ごみ処理施設選定地予備的調査結論見送り」。松川村白澤議員が「圏域住民の医療事業充実の対策について」、大町病院の内科医が減り、救急活動に障害の無いように、安心の確保について

質問しました。

回答は、「救急自動車は5台、救急救命士は15名で、圏域第2次医療機関・安曇野市・松本市などと連携して、県のドクターヘリの要請も視野に圏域住民を守る体制をとる。」でした。

定例会後の全員協議会では、

- ①消防組織の広域化について、県内を2ブロックとし、東北信・中南信とする組合わせの案が示された。
- ②人事院勧告に伴う職員給与等について、初任給を中心に若年層に限定した月額引き上げなどの改定が予測される。
- ③安曇病院の療養型病床を一般病床へ転換することについて、46床を変更し、内科入院需要の増大へ対応していく。（大町病院の内科診療体制の縮小により、急性期患者の診療を確保するため）など説明がありました。

池田松川施設組合

平成19年10月18日 定例会報告

今年から始めたアレルギー対応食は、安全確認をさらに徹底していくとの話がありました。

- 監査委員に、池田町の山田賢一氏(58歳)を同意。
- 平成18年度池田町、松川村学校給食共同調理施設組合一般会計決算を認定。
[歳入総額] 1億1743万円 [歳出総額] 1億1274万円
歳出総額は、オープン2基とアレルギー対応の備品購入などにより、昨年より134万円増となっている。
児童生徒職員数：池田町927名・松川村1024名
負担金：松川村が582万円多い6119万円
監査委員から、施設の老朽化が見られるので、建て替えを検討してほしいと要望意見あり。
- 平成18年度池田町松川村葬祭センター施設組合一般会計決算を認定。
[歳入総額] 1240万円 [歳出総額] 1106万円
人口19.3.31現在：池田町10,757・松川村10,067人
利用状況：池田町112・松川村79・地区外17体
- 平成19年度池田松川施設組合一般会計補正予算
歳入歳出522万円を追加し、総額を1億3322万円とする。給食と葬祭の会計からの繰越金は、予備費に充当するもので、これを全会一致で可決。

穂高広域施設組合

平成19年10月22日 定例会報告

管理者から、組合の健全運営に努める。現施設をできるだけ永く使用するよう努める。排出ごみの質や量の抑制を求め、理解を得ていきたい。環境問題に十分な配慮をしたい。とあいさつがありました。

- 平成18年度一般会計決算を認定。
[歳入総額] 28億4669万円
(うち松川村分担金1億550万円)
[歳出総額] 28億2455万円
バイオマスエネルギー地域システム化実験事業等により前年比、歳入7億7394万円・歳出7億6117万円の増となっている。
- 平成19年度一般会計補正予算を可決。
財政調整基金積立およびじんかい処理費のうち施設機械清掃点検整備委託料の減、余熱利用施設費のうち需用費の増など88万円を追加。

池田松川学校給食センター運営委員会

平成19年11月8日 委員会報告

平成18年度池田町松川村学校給食センター給食費会計決算について、①副食調味料などの納入業者はすべて入札で選定。②米飯は週3回。パンより残食が少ない。③給食費の未納はない。④アレルギー対応食の事故についての経過説明。など説明を受け、全会一致で認定しました。



整然と給食の準備をします (小学2年生)

常任委員会合同視察研修

～新潟県佐渡市～

平成19年12月1・2日

先進的な取り組みの特産品づくり

総務産業建設常任委員会

海洋深層水は最近注目を集め、「水」の販売は各地で取り組まれています。佐渡市は、自治体が施設を建設し、深層水の販売といういろいろな分野への活用を研究していました。

施設で分水した深層水を、地域の各企業に2年間無料で供給し、「利用」と「研究」を要請しています。現在は漬物、味噌、塩、豆腐、酒、パン、など20数社が利用し、付加価値をつけて販売しています。

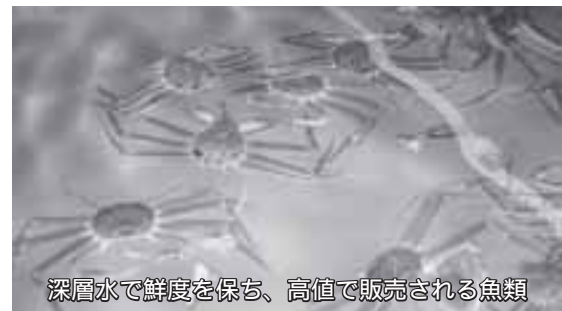
ミネラル分が多く植物の生育促進作用があるので農業部門にも活用し、コシヒカリの水田に利用し、その米を「海舞・うまい」と称して販売しています。

また、自治体では、あわびの種苗生産施設も建設

し、製氷施設も併設していました。

深層水の水槽を漁師に貸し出し、魚をその水槽に入れておき、そこから市場に出すことにより、鮮度がよく高値で販売できるなど漁業の振興を図っていました。

深層水を単品として売り出すのではなく、地域全体の活性化のための取り組みは見事で、大変参考になりました。



深層水で鮮度を保ち、高値で販売される魚類

画期的な取り組みの子育て支援

社会福祉文教常任委員会

「小木子どもセンター」は、一つの施設で保育園・幼稚園・子育て支援センター・児童クラブ・子育て相談を行っていました。

幼稚園は、就学前の1年間だけ全幼児が入園して小学生になる日を迎えます。保育園は幼稚園前の期間が対象で、希望期間の利用ができます。

この施設は、管理運営経費を削減しながら子育て支援全体に取り組みっており、保護者の相談にも連携して対応し、送迎も行っ



子どもセンター内にある体育館

ています。

運営面では、施設ごとの責任者のもとで協力して取り組めるのでとてもよいとのことでした。

保護者と子育てをさまざまな形で応援し、子どもを地域で温かく育てる体制を村の今後に生かしていきたいと思われました。

考古資料館も視察

ここは、民俗資料的な生活関係と石器土器なども展示しており、村の歴史を保存展示していくことの大切さを感じました。



村の民族資料展示の参考にしたい資料館

議 会 日 誌

〔10月〕

- 18日 池田松川施設組合議会
- 22日 穂高広域施設組合議会
- 26日 区長会と懇談会

〔11月〕

- 1日 常任委員会合同研修視察
(2日まで)
- 3日 自治・技能功労表彰式
- 19日 多目的交流センター起工式
- 26日 北アルプス広域連合議会

〔12月〕

- 6日 議会運営委員会 議会全員協議会
- 11日 平成19年第4回定例会(20日まで)
- 15日 松川神社しめ縄づくり
- 21日 県出前講座「後期高齢者医療制度」

ほか

- 10・1 はつらつスポーツ大会

- 5 中学校松葉祭

- 11 大北市町村議員球技大会

- 14 村民運動会

- 11 上下水道委員会

- 9 農作物鳥獣被害防止対策技術検討会

- 11 暴力追放・交通安全村民大会

- 11 国へ陳情(国営公園)

- 20 県へ陳情(国営公園)

- 27 四団体(教育・社会教育両委員会・民生児童委員協議会・議会社会福祉文教常任委員会) 合同会議

- 10 県へ陳情

- 13 経済懇談会

- 21 年末交通指導所

- 24 大北水田農業推進協議会 など

一般質問 7人の議員が登場

平成19年12月18・19日



平林(源)議員

2期目出馬はどうか

公約の達成は。

村民と議会の協力でほぼ達成できた。焦らず慌てず着実をモットーに、充実した4年間だった。

2期目立候補は。

後援会から要請があり熟慮の上、立候補を決意した。気力体力は十分だ。妻は「村民の幸せのためがんばりなさい」の言葉を残した。勇気を持って挑戦したい。

2期目の施政方針は。

- ①住民の目線で、清潔・公正、村民参加の村政。
- ②自主財源確保と働く場所確保のため積極的な企業誘致と村内企業支援。
- ③子育て支援、福祉対策のさらなる充実。
- ④地産地消と観光農業。

扇状地の村文化財指定は

神戸原扇状地は自然豊かな村の宝。それを守るために指定はどうか。

条例による土地利用調整で保存は可能。

全国学力テストの結果は

公表されたが状況は文科省から結果と次の通知があった。

テストは一部の教科なので過度な評価にならないよう十分配慮されたい。

- ①今後の教育施策や学習改善などに活かされたい。
- ③公表は個々の学校名を明らかにしない。

結果については、今後学校で有効に活用したい。



井上議員

予算編成に当たって

20年度予算編成の基本的考えはどうか。

財政は厳しいが必要

なことはやる。村民生活が楽しく、明るくなる予算編成をするよう職員に指示した。

高瀬川河川敷グラウンドを整備し、利用団体への管理委託はどうか。

利活用の内容など具体的に検討したい。

村施設へのAED設置と取扱い講習会の開催状況は。

小・中学校、役場、スポーツプラザ、すずむし荘の5カ所に設置。講習は設置時に職員が受講。防災訓練時にも消防署の支援で実施した。

農業振興はどうか

農業委員は農業振興に不可欠。選挙による定数は削減すべきでない。

自立の村づくりに向け12から10に減員したい。

食育と地産地消の推進に、給食に地元野菜利用と米飯の拡大はどうか。

関係者の会議で検討

したい。



矢口議員

村の将来はどうか

村債の繰上げ償還が可能になったと聞いたがどうするか。

国の法律による要件に合えば可能。村は7割を超える利率が対象で対象となる高利率の村債は早期返済を図る。

将来の財政には企業誘致が影響する。高速度路沿線の市では工業団地への問合せが多いと聞くが、村は競争に勝てるか。

問合せは結構ある。各方面へお願いしている。さらに努力する。

総務省が財政破綻度の数値基準を出した。土地開発公社の債務保証など連結し比較するらしいがどうか。

20年度決算から算定することになった。まだ、細部は不明。

森林整備などについて

県は森林税を20年4

月の導入を目指し県議会

で審議中だが事業内容は。

緊急間伐など地方事務所が決め、県が9割を負担するというもの。

個人の森林整備と村の対応はどうか。

未確定が多いが個人負担は1割。村は間伐と緩衝帯整備を考えたい。

国営公園大町・松川地区の開園が決まった。地域づくりに活かすために審議会設置はどうか。

村に必要なかどうか検討したい。



榛葉議員

村の省エネ対策

18年策定した新エネルギービジョンの活用は。

多目的交流センターでは地下水による冷房利用を予定。また、公共施設の生ごみ堆肥化。穂高広域の可燃ごみのバイオマス事業などを実施。

二酸化炭素の削減も大切。環境省は「ストッ プ温暖化」の資料で家庭の待機電力とシャワー短

縮で年間約1万円削減で

きると説明している。全

戸へ配布しないか。

取寄せて検討したい。

農地・水・環境保全部向上対策の取組み状況は。

村内9組織が活動中。道水路管理、景観形成の植栽、外来種駆除、荒廃農地整備などに取組んでいる。

村長の決断で600万円を予算化した。村誘導型で活動推進しないか。

地域の個性・特色は重要だが、統一した景観形成も必要。協議会設立など代表者会議で検討する。

村長の政治姿勢について

交通事故が多発、事故防止啓発に反射タスキはどうか。

早急に実施したい。

建築後35年が経過した駐在所はどうなったか。駅前交番で要望する。

村づくりは継続が重要。今後、何を指すか。若者が就学などで村を離れても、帰ってきたくなるようなロマンある村にしたい。



新村議員

村農業の現状と課題は

問 村第5次総合計画で農業関係の取組み状況は

答 おおむね計画に沿った取組みができています。

問 グリーンツーリズム

答 まだ具体的ではないが、協議会で取組んでいるがまだ希望者はない。

問 米価下落の対策は

答 コスト削減を図るため集落営農組織による機械の共同利用や省力化をさらに進めていきたい。

問 総務省の「頑張る地方応援プログラム」への応募で、村でのプロジェクトの中に農業関係がないが検討を。

答 国の交付税の動向もあるが検討したい。

問 小作料や農作業標準賃金および料金の見直しはあるか。

答 小作料見直しは20年に、農作業賃金などは関係機関で協議する。

問 米の販売戦略は

答 鈴ひかりの首都圏で

の試食販売など進めている。なお一層のPRに努めたい。

問 村での米のブランド化は

答 エコファーマーをさらに推進したい。

観光農業への取組みは

問 国営公園開園で観光ルートや山麓線沿線の利用計画の見直しは

答 観光客の流れを見て検討したい。

問 観光農業の組織的な推進を

答 行政は運営でなく情報提供などの指導や支援をしていきたい。

問 県が行う「地域発元気づくり支援金」への応募予定はあるか

答 20年1月末が締切り。各課で取組みを検討中。



佐藤議員

消防広域化の推進は

問 この計画の目的と必要性は

答 災害時の初動体制の充実、要員の専任化など

住民サービスの向上と行政財政運営の効率化。消防本部数や位置などが変わり、119番通報の一本化がされる。なお、構成市町村との連携や消防団は現行どおり。

問 この消防計画に対する村の係わりは

答 大北広域から計画の報告があった。消防職員に広域化アンケートを実施し、結果は多数が賛成であったと聞く。

問 消防職員に団結権はない。広域化でおきる労働問題の対応は

答 多くの消防職員が広域化に賛成なので、問題は起きないと考える。

安全安心な村づくり

問 駅前信号機の改善は

答 メロディー信号化を大町警察署へ要望してある。

問 松香荘の床が冷たく参加者がづらい。改善を

答 検討したい。

問 地震測定器設置の進捗状況は

答 県へ要望しているが設置時期は未定。



渡邊議員

政治姿勢について

問 「農業危機突破大会」が農民の思いと行動がひとつになる契機になればと思ったがどうか

答 「農民の心をひとつに」は同感だ。

問 福祉灯油が話題になっている。知事は、市町村には「お手伝いをす」と約束した。村はどうか

答 実施に向け努力する。

問 村の子育て支援は県下に誇れるが、国の貧困格差、福祉切捨て政策に対する姿勢は不十分とみるが

答 法的なものには村独自で反対はできない。

問 村民が元気で誇れる村を目指し、村長は自立の道を堂々と歩むべき

答 村づくりは夢を持って努力したい。

後期高齢者医療制度は中止撤回を

問 村民の制度反対署名

は600筆集まり国会請願した。署名した村民からは制度への不安、不満、疑問が寄せられている。

答 署名提出には感謝をしたい。全国での署名活動などが制度の一部凍結になった。

問 問題点が次々と報道

答 検討し、必要なら対応を考えたい。

〈用語説明〉

※1【AED（自動体外式除細動器）】突然の心臓停止のときに、電気の刺激で救命する医療機器。

※2【新エネルギービジョン】化石燃料を使用し続けることによる環境破壊や燃料の枯渇に備え、新たなエネルギーの導入に向けた基本方針。

※3【バイオマス】微生物を利用してエネルギーを得ること。

※4【待機電力】家電製品をコンセントにつないでおくだけで消費する電力。

※5【グリーンツーリズム】都市住民が農家などに宿泊して農作業を体験したり、その地域の歴史や自然に親しむ余暇活動。

※6【頑張る地方応援プログラム】総務省の事業。「魅力ある地方」を目指し、地方独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む地方自治体に対し、地方交付税等を3年間支援するもの。

※7【ブランド化】商品の価値を高めること。

※8【エコファーマー】環境にやさしい農業（堆肥などで土づくりをし、減化学肥料、減化学農薬で行う）に取り組む計画を作成して、知事の認定を受けた農業者。